

第 11 期 松戸市緑推進委員会

第 7 回 委員会

1. 日時 令和 3 年 11 月 15 日 (月) 10 : 00 ~ 12 : 00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館 5 階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛・平岡 考・小谷幸司・小嶋 功・高橋 清
高橋盛男・河合直志・石川静枝・藤田 隆・上野義介・狭間明美

○松戸市

齋藤博紀 (街づくり部審議監)
布施 優 (公園緑地課課長)
白石義之 (21 世紀の森と広場管理事務所所長)
田辺久人 (松戸みどりと花の基金事務局長)
竹内茂樹 (公園緑地課課長補佐)

○兼事務局 (みどりと花の課)

岸 秀一 (課長)・三末容央 (専門監)・木村高德 (補佐)・岩田 昇 (主査)

○LAU 公共施設研究所 (松戸市緑の基本計画策定委託受託者)

牧野

○傍聴 1 名

事務局より本委員会の成立について、委員 15 人中 12 名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

1 議事

- 1) 議事要録の確認について
- 2) みどりの基本計画の策定について
- 3) その他

1 連絡事項等

1 閉会

議事 1) 議事要録の確認について

会長

前回委員会の議事要録の確認について意見等はないか。
ないようであれば事前送付済みの書類を議事要録とする。

議事 2) 緑の基本計画の策定について

事務局

先ずお手元の資料を確認させていただきます。

資料 1 として、「緑推進委員会関連スケジュール（案）」

資料 2 として、「みどりの基本計画（素案）に対する意見対応と主な修正・変更のポイント」

資料 3 として、「専門家会議等を踏まえた変更予定事項」

資料 4 として、「みどりのプラットフォームのイメージ図」

以上が本日の配付資料です。

過不足がございましたらおっしゃってください。

事務局

それでは、議事 2) の緑の基本計画の策定について、ご説明いたします。スケジュール表をご覧ください。

現在パブリックコメントの開始時期を 12 月 16 日（木）と設定しております。これは、みどりの基本計画の上位計画となる都市計画マスタープランのスケジュールと合わせたものであり、議会への説明を経て、パブリックコメントへの流れとなります。実施期間につきましては「松戸市パブリックコメント手続実施要項」により、30 日以上と定められていることから、12 月 16 日から 1 月 16 日の 32 日間を予定しています。ただし、上位計画である総合計画や都市計画マスタープランとの関係で、まだ流動的な部分が残されていることをご承知おきください。

パブリックコメントの終了後は、直ちに意見を取りまとめ、次回の 2 月上旬開催予定の緑推進委員会で、推進委員の皆様へパブリックコメントで出た意見の報告と基本計画の最終調整を行う予定としております。その後 3 月上旬に計画を決定し、市長の決裁を経て 4 月 1 日公表の予定をしております。以上が、今後のスケジュールとなっております。

会長

これまでの説明で質問はないか。

委員

「都市計画マスタープラン」が変わることによって「緑の基本計画」の変更もあるのか。

事務局

「都市計画マスタープラン」と「みどりの基本計画」は切り離すことはできず、これまでも調整を重ねながら進めてきており、大きな変更が生じない限り大丈夫だと考えています。

次に、事前に配布した計画案のご説明に移らせていただきます。資料と合わせてご覧ください。計画案のページをめくっていただくと、赤字で記載された箇所があると思いますが、春にお渡ししている計画案から大きく変更した部分を赤字で示しております。

この説明につきましては、LAU 牧野さんからお願いいたします。

LAU

計画案は今年 3 月の第 4 回委員会での意見をもとに 5 月に素案として一度まとめた。その素案に基づき各課の意見照会を 6～8 月に行い、意見をもらった。その他事務局で検討を行い、それらを含め修正・変更したものがお手元の 11 月と書かれた計画案となっている。

P. 5～6 計画策定の背景では、みどりを取り巻く社会情勢として、3月の意見を踏まえ修正や項目の変更を行った。「持続可能な社会に向けた取り組みが加速化しています」ではSDGsの取り組みのゴール8の「経済成長と雇用」を加えている。

P. 8 松戸市の都市づくりの方向は総合計画や都市計画マスタープランに基づき都市づくりの方向を整理した。

P. 15～22 松戸市のみどりの現況では、第4回委員会での意見での写真の説明として、みどりの機能や役割が分かるようなコメントをできる限り記載した。

P. 23・24 これまでの計画推進の成果として、最新のデータで整理し、修正を行った。

P. 30 計画の基本理念とテーマでは、計画のテーマ、キャッチフレーズ関係を整理している。みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくりをテーマとし、「みどりと暮らす。松戸に暮らす。豊かに暮らす。」をキャッチフレーズとし記載した。

P. 33・34 みどりの配置方針図では、「みどりのシンボル拠点」が明確でないという意見を含め、凡例等を整理した。また里やま活動拠点の凡例を抽象的なマークだけでなく具体的な表現に変更をした。

P. 36 計画の基本方針と目標と、P. 135・136 重点施策の目標 との関係が分かりにくいとの意見があり、あらためて整理している。P36では目標とする姿として、市民のみどりのあるライフスタイルがより豊かになるという展開は具体的な数値目標だけでは測れないことから、アンケート調査に基づく意識意向の傾向、活動の状況を総合的に判断し易い内容を指標としている。P135は、記載のとおり、重点施策としての事業ベースの目標値としている。

P. 81・82 (3) 特色ある公園の整備と管理運営では、松戸中央公園・相模台公園に関する記述を見直した。また配置方針図との整合を図り③大谷口歴史公園を加えた。

P. 84～86 松戸駅周辺のみどりを再生・活用するでは、新拠点ゾーン基本計画との整合を図り担当課と調整し修正した。

P. 92②と93④のイメージ図を入れ替えた。また、⑤新拠点ゾーンの記述を変更した。

P. 95①に千葉大学を項目に加え、グリーンインフラがイメージできるように千葉大学のレインガーデンの写真を掲載した。併せて八柱霊園も項目に記載した。

P. 109 みどりのある多様なライフスタイルを「創造する」から「実践する」に変更した。

P. 110～「憩う」「食べる」など各項目に対応した趣旨・目標について整理した。⑤⑦⑧⑩のライフスタイルのイメージの内容を一部修正し、特にP. 119の「働く」ライフスタイルのイメージに「若い人が活躍できる場が多く生まれ、みどりのあるライフスタイルを支えている。」の記載を加えた。

P. 120 (2) は「みどりのあるライフスタイルを支える仕組みづくり」を「みどりのあるライフスタイルの支援」にタイトルを変更し、③を二つに分けて整理した。

P. 121～124 シティプロモーションでは、(1)～(4)全てを重点施策とした。

P. 126 グリーンインフラの推進とSDGsへの貢献では、■施策の柱を整理した。ゴール8「働きがいも経済成長も」を追加した。

P. 132 財源の確保に具体的な内容を加えた。

P. 133・134 計画の進行管理 進行管理の考え方や流れが分かり易いように補足した。

他にも、全体的に写真の差し替えと資料編の追加を行った。

事務局

今あった説明以外の変更事項については、事務局から説明させていただきます。

計画案をつくった後に、柳井先生ほか専門家会議でいただいたご意見や、事務局で気付いた点な

どがございます。その部分につきましてはお手元の計画案には反映されておりませんので、ここで簡単にご説明いたします。

暗い写真については、調整できるものは、データ上で調整する。

P. 27 計画の課題①～⑩の内④⑤⑧はタイトルが同じような内容に思えるとの指摘から、⑤「身近なみどりのネットワークをつくること」⑧「みどりの関心を高める場や機会を確保していくこと」に修正する。

P. 33・34 ■みどりの配置方針図では、計画を明確に示すことが必要で、凡例の中で何をやるうとしているのかを説明できるようにしてほしいとの意見があり、「特色のある主な公園・緑地など」を「主な公園・緑地など」と「特色ある公園」に分ける。「特色ある公園」の説明は「公園の特色を生かした整理と管理運用を行い、一層の利活用を図ります。」とする。花の拠点は凡例の色を変え分かり易くした。十分とは言えないかもしれないが、個々の政策の括りに合わせた凡例としている。

P. 36 目標とする姿の表現は、成果を示すアウトカムの表現に修正したい。例として前案の「緑被率を維持する」→「緑被率が維持される」に、また前案の「常時公開している樹林地を増やす」→「常時公開している樹林地が増える」というような表現にしたい。また、それぞれの方針の頭にある●の 4 つの見出しは削除したい。

P. 42 公園の不足エリアが分かる公園配置・整備方針図は、当初作成後時間が経過しているので更新する。

P. 49 ①特別緑地保全地区の指定では、「緑地が持つ雨水貯留浸透等のグリーンインフラの機能を鑑み、特別緑地保全地区の指定対象を広げていくことを検討します」を追加記載する。

P. 72 ④学校におけるみどりの創出・管理では、学校におけるみどりの「維持管理」は非常に大変でその対応だけでも困難な現状にあり、「創出」はあまりに現実的ではなく「学校におけるみどりの整備・管理」に変更する。

P. 73 ③緑化支援制度の拡充では、「生け垣づくりの助成」について、今は生け垣を設置する人は少なくなっているが、地震対策としてブロック塀をなくすことを目的に生け垣づくりを推奨している経緯もあり「生け垣」の文言は残す。支援の目的は花壇づくり等を含めた沿道緑化にあることから、他の緑化支援も「沿道緑化を支援」で受ける。

P. 105 ③大学との連携では、アートパークに併せて、現在 21 世紀の森と広場で開催中のアートピクニックを追加し、「21 世紀の森と広場の豊かな自然を舞台に、松戸市が教育委員会や複数の大学などと連携して、現代アートをきっかけに多様な文化的価値を創造する芸術祭として開催しています。」の説明を記載する。

P. 108 前回委員会での議論や意見により変更を加え、プラットフォームのイメージ図をつくり直した。主な変更箇所は、支援側を原案の「行政」「緑推進委員会」「(公財)松戸みどりと花の基金」に、新たに「企業」「大学等研究機関」を加えた。またフィードバックの反映のため行政側への矢印を加えている。

P. 125、126 グリーンインフラの推進と SDGs の関連する「主な施策の柱」を見開きのページに収めて分かり易くする。

P. 132 森林環境譲与税の活用に「維持管理などで発生する森の資源の有効活用」でリサイクルの視点での記載を追記した。

以上が説明となりますが、今の内容に加え、本日の審議でいただいたご意見を踏まえ、パブリックコメント用の最終案とさせていただきます。ただしスケジュールの都合上、いただいたご意見すべてを計画案に反映することはできないかもしれませんので、その場合はパブリックコメン

トへの対応と合わせて、来年2月末までを目途に修正させていただくこととなりますのでご了承ください。以上が、基本計画についての説明となります。

計画案の変更に対する意見

会長

5月の素案の提示以降検討が行われ、委員会での議論や関係各課に意見照会がなされたことがポイントで、「みどり」だけのことではないので、関係各課との調整は大変だったと思う。今日はパブリックコメント前の最後の意見できる場となる。ただし、時間等の都合から重要度や直せるところが優先され素案になる。場合によっては一部パブリックコメント後に持ち越し、パブリックコメントの内容に合わせて修正することもある。

P.108のプラットフォームの図に修正が加わっている。専門家会議で、プロジェクトベースで進める中でプラットフォームの機能が必要とされ、それを行政が支援をすることで来たが、行政は支援をするだけなのか議論となり、プロジェクトを回して得られたものがプロジェクトに反映されるサイクルでいいのか。プロジェクトの検証でプロジェクトが良くなるだけでなく、施策や取り組みに反映されていくことが重要ではないかとのことから、「反映の→」が行政側に向けたことがポイントとなる。

委員

プロジェクトの検証から施策反映へのつながりは見えるようにはなったが、プラットフォームの共通目的となるコアな存在意義的な打ち出しがあったらいいのではないかと。全体の流れの中にこれは必要であると「緑の基本計画」の中や緑推進委員であれば分かるが、これだけを見た人にはこれがどのような機関・組織体なのかプラットフォームを構成する人の共通理念・目的がひと目でわかるようになればいいのではないかと。

会長

テーマになっている「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」が最終的な目的。その中でプラットフォームは「ひと・みどり・まちをつなぐ」役割を担うが、その組織形態はプロジェクトを回して行く中で必要となる機能、組織運営の在り方や形態が見えてくるのもので、ここで合意をして決めるものではなく、現状でどんな役割が必要かを打ち出せばよいのではないかと。このプラットフォームの議論を進めているメンバーの意見として、役割等で明示したいキーワードはないか。

委員

目標像や目的は細分化すると表現として見づらくなる。ワード化してイメージするなら「ひと・みどり・まちをつなぐ」を多少際立つような表現にしてはどうか。役割は多様な面を持っているので役付けしない方が良いのではないかと。

事務局

この図だけですべてを表現できない。今後の企業の参画も考えると、このような図があるだけで話がし易くなると思われ、状況に応じてイメージ図を営業的に使えるようにしたい。

会長

前回の表現から「企業」や「大学」が入り、「フィードバックを行政の取り組み施策に反映させていく」と修正された「ひと・みどり・まちをつなぐみどりのプラットフォーム」になっている。P108は、現段階としてこのイメージ図にするが、20年間このままではなく、次の見直しでは実際にプロジェクトが動き、新しい形態や役割が求められていることも考えられる。他の部分で意見はないか。

委員

冒頭の「計画の構成」において、ここで「計画の構成」だけでなく、主張あるいは売りになるもの両方を見せられたらよい。第 2 章の「計画のテーマみどりと暮らす・・・」はハイライトを入れたカラーで目立つように色を変えてあり、第 3 章の基本方針と個別施策の横の「グリーンインフラや SDGs」の表現も関連性が伝わるが、第 4 章は通り一遍の描き方になってしまっている。基本計画の特徴としての「みどりの市民力」と、それをコアな部分で支えるプラットフォームは、本編の第 4 章の「計画の推進体制」には詳しく述べられており、冒頭にも言葉として書き込めば松戸がそのことに力を入れていることがストレートに伝わる。

会長

確かに「みどりの市民力」が松戸のみどりを支えてきたことを、ここでもアピール出来るとよい。

委員

第 3 章の横つながりを丸ごと受ける形で「市民力」でもよいと思う。

会長

P. 129 と 130 は全体が「みどりの市民力」で、その一部がプラットフォームとなるが、第 4 章の左にガツンと「みどりの市民力」もあり得る。

委員

第 1 章 計画の基本事項 に載っている写真が全て 21 世紀の森と広場であることは、「緑の基本計画」全体のイメージとは違うのではないか。

事務局

今回全ての写真の見直しを行った。どのページにどの写真を載せるということは、事務局で意味を持たせた。本計画の中で総合計画に反映させるみどりの施策として、「21 世紀の森と広場」「公園の再整備」「街路樹」「みどりの市民力」の 4 つがあることから、第 1 章を「21 世紀の森と広場」第 2 章を「街路樹」第 3 章を「公園の再整備」第 4 章を「みどりの市民力」を順番に載せた。意味を持たせて、このようにしている。

委員

トップページは 21 世紀の森と広場でよいと思うが、どの写真も構図が似ている。

会長

写真については、P. 37 の写真も替えた方がいいのではないか。身近な公園の再整備で顕著に良くなったと分かる写真とは言い難い。委員の皆さんから良い写真があれば提供してほしい。

事務局

P. 37 の写真は交換したい。トップページに載せる写真は「市民力」が良いという考え方もあり、21 世紀の森と広場の写真と入れ替える方法もある。

会長

コンセプトを考え直すのではなく、例えばレインガーデンの写真提供を受けて載せたように、委員からさらに良い写真があれば提供を受けることでどうか。

第 2 章 (P. 29～36) について特に P. 35、36 の計画が実現されたときに「なっている」あるいは「そうなってほしい」状況の表現方法をアウトカムのすることについてはいかがか。

説明にあった●部分 4 つの項目「みどりを基盤とし豊かに息づいている。」「オープンスペースが増える」「ネットワークによる活動が広がる」「みどりのあるライフスタイルが広がる」を削除する理由はなぜか。左側と同じで被るからか。●部分を外し、■をアウトカムの指標で目標像とすれば、表現は全て変更となり、■緑被率は維持されている。■担保性の高いみどりが確保され

ている。■常時公開している樹林地が増えている。■市民や団体のローカルルールによって運営されている……。というように、目標とする状態になってほしいという状況の表現となる。具体的な目標は P. 135、136 に記されていて、基本方針①であれば、施策は地域公園の整備となり「5 年後 13 公園」「10 年後 15 公園」が具体的目標として書かれている。

委員

この委員会の中であれば、関連性を理解した上でアウトカムのだと分かるが、その表現だと緑被率が改善するのも、担保性の高い緑が確保するのも人の力で行うものであるのに、そうではないイメージに感じるのではないか。

事務局

ここだけ読むとそうなるかもしれないが。基本計画にある施策が推進されることによってこうなることを言いたい。

委員

それは分かるが、左頁があつてそれが実現したときの像が右頁であると説明が必要となる。私事だが若い頃に、書いてある事を説明しなければならないことは書くなと言われた経験があるが、受け止め方を重視した方がよく、元の「増やす」の表現の方がいいと思う。

会長

二つの案があり、A案は現状通り、左頁が意思を示す表現なので右頁も目標とする姿も相対として、現状の「つくる」「維持する」「確保する」のような主体的な表現にする。B案は様々な施策を実現した結果このような状態になる、こういう状況を目指していくというアウトカムの表現になる。

B案になった理由はなぜか。最後のページとの関係性が不明確だということからはじまった話だが、アウトカムの表現にすると、目標とする像であれば方針ごとに像を入れると分かりにくくなる、例えば「みどりが多いと思う人を増やす」は、ライフスタイルだけでなく実際にみどりが多くなければいけないもある。基本方針①～④の総合的な施策の結果を個別に言うことで説明が必要になってくる。

委員

目標とする姿を青の■の像で表現するより数値目標の方がよいのではないか。しかし数値目標にして青の■を削除すればタイトルの「目標とする姿」とは合わなくなる。

委員

どちらとも決めかねている。「緑の基本計画」を実現すればこういう姿になるという形成的イメージであり、アウトカムでなければ、例えば P. 39 基本方針①の「暮らしを支えるみどりを築く」の中の「施策の柱」をうまくアレンジをして「樹林地と都市農地を保全する」のような表現の方法にすることも一つの案。

会長

仕分けをするなら、P. 35、36「緑の基本計画」の目標は 20 年後の目標であり、P. 135、136 は 5 年、10 年後のリアルな短期間でのチェック目標となる。「緑被率が維持される」や「みどりが多い」と思う人が増えているという全体像は 20 年間で見ていくものとなる。P. 135、136 にはアクションプラン・重点プランに近い 5 年、10 年の中期の目標が書かれているが、P. 134「計画の進行管理」の緑推進委員会による計画の中間年次（概ね 10 年）の短期評価（5 年後）・中間評価（10 年後）の物差しになる。計画全体の目標が P. 36 とすれば、今のままでもよいのではないか。20 年後の目標を P. 36 に、それに向かうための具体的な 5 年 10 年の評価を P. 136 に整理する。5 年、10 年後緑推進委員会の見直しで物差しの変更や改訂版での差し替えもあり得る。

私的には P. 36 のアウトカムの表現は分かりにくく、その内容は P. 31～32「みどりと暮らす豊かさ」の具体的なイメージに近いとすれば、P. 36 は 20 年計画のイメージで、P. 135、136 は短期の見直し重点の評価のための目標という位置づけ。

委員

P. 36 はチェックのための指標としての表現がよい。

会長

これまでの議論は専門家会議でも行われたが難しかった。

- ・ P. 31、32 はアウトカムのイメージ。
- ・ P. 35、36 今後 20 年間に見ていく指標。
- ・ P. 136 短・中期の指標。

大枠でこのような説明でどうか。

委員

計画の構成第 2 章の各基本方針にも、目標という言葉が出てきているので確認してほしい。

委員

P. 36 の方針②の関連する SDGs のアイコン 17 が重複している。

事務局

修正します。

委員

P. 103 (公財) 松戸みどりと花の基金は「広く市民の・・・、もって豊かなうるおいの「もって」の使い方に違和感があるが、なぜこの文言を使うのか。また、「もって」の後ろに「緑」が抜けているのでは。

事務局

(公財) 松戸みどりと花の基金の定款に書かれている文言を確認し、修正する。

会長

P. 96 で、UR が常盤平団地で今年 4 月に SEGES 認定を受けている。松戸市の企業の参加実績となっており、事例として載せてもいいのでは。

事務局

先日副市長に基本計画を説明する機会があり、同様の意見があった。記載したい。

委員

P. 93～94 のイラストに文字が重なり読み取りにくいところがあるので修正してほしい。

委員

P. 108 のプラットフォームのイメージ図が変更されるが、P. 129、130 の市民力の図に影響する部分はないのか。

委員

P. 129、130 に「プラットフォーム」の図を組み入れられないか。本文にイメージ図がそのままが入るのではなく、みどりのプラットフォームの囲いみたいなものだと分かり易い。

事務局

「プラットフォーム」と「市民力」では、切り口が少し違うのではないか。

委員

プラットフォームとしてどこまで認識できるか分からないが、行動範囲は市民活動団体と重ならない。ここに入れるのは強引で複雑になり過ぎる。

会長

文言として、「活動団体の連携の強化」や「みどりのプラットフォームへの参加」という表現までか。フィードバックして反映させることについては、緑推進委員会が審議し行政に提言しているように、P.129「行政」(運営)⇒「推進委員会」の反対向きに、「推進委員会」(提言・反映)⇒「行政」を加えるということではいかか。

委員

P.10 にコラムとして TOPIC「グリーンインフラ」があるが、目次での表記はできないか。また、「グリーンインフラ」は巻末に用語解説欄に記載されているが、「生物多様性」については説明がない、コラムに載せた重要な概念には説明が欲しい。

会長

今日の議論をできる限り反映させて、パブリックコメント用の案とする。積み残しはパブリックコメントの対応と併せて検討する。パブリックコメント前の議論は、これで終了とする。

その他

サロン部会について

委員

コロナ禍による緊急事態宣言となり、集まることができずに活動自体が止まり、時間が無くなってきたので優先順位を付けて進めていく。

みどりのフォーラムが持ち越しになり、みどり関係のイベントが春に重なりそうで、部会で調整しながら進めていく。学習会等はできるだけ合間を見つけて続ける。視察や情報発信の仕組みづくりは後に回す。情報発信について、里やまボランティア講座の修了生から仕事で直接参加はできないが SNS(比較的やり易い)を使った情報発信はできるので連携をしたいとの申し出があった。

委員会終了後にサロン部会の今後の日程等調整を行いたいので集合してほしい。

事務

今後 4 つの大きなイベントがあることに加え、4 月には「緑の基本計画」が出来上がり、里やま活動の動画も出来る、啓発に使えるアイテムが増えるので、それをどのように使っていくかも考えていきたい。

会長

基本計画のスタートアップのキャンペーンができれば、「松戸市はやっている」、「緑の基本計画が動き出した」「松戸市はこんなイメージを持って実践しようとしている」を伝えたい。成果物である基本計画そのものではなく、企業であればコンセプトブック、以前から提案のあった「子どもみどりの基本計画」の作成など、そのためにはマンパワーも必要だが、一年目がいい形でスタートアップできるようにしたい。

4 つの大きなイベントとは何か。

委員

「ちば里山アワードの受賞記念講演会」「緑と花のフェスティバル」「オープンフォレスト in 松戸」「みどりのフォーラム」の 4 つ。

メンバーがほぼ被っている。

委員

パブリックコメントはホームページか。

事務局

基本的にはホームページであり、支所、図書館等の行政機関、みどりと花の課のカウンターでも閲覧できる。

委員

計画案を巻頭から見ていくことは考えられず、先ず自分の興味のあるところがどこかを概要版でチェックして本体（ぶ厚い本）に誘導するような道具として使う方法はどうか。自分の興味ある部分に意見が出せる。

事務局

パブリックコメント用に概要版はつくる予定ではいるが、工夫を凝らすとなると時間的に難しい。ホームページつくる時の構成で検討する。

委員

インデックスができるとうい。

会長

パブリックコメント時での対応までは分からないが、先々の基本計画の載せ方として興味ある部分にたどり着けるようなつくり方にしてほしい。市民の皆さんには、パブリックコメントの期間で、コロナ禍中の冬休みの家で過ごす時間を使って、じっくり考えしっかりと意見を書いてもらいたい。

パブリックコメントでの意見への対応は、2月上旬の次回委員会で議論したい。

他に何か意見はないか。

—傍聴者退席—

連絡事項

21 世紀の森と広場管理事務所長

イベント開催情報

- ・ 11/19（金）までアートピクニック
- ・ 11/20（土）21（日）は松戸モリヒロフェスタ（地元アーティスト、キッチンカー）
- ・ 11/28（日）ドコでもシアター（ピアノ、バイオリン、サクソによるクラシック、ポップス）

会長

ドコでもシアターは開催をはじめて 10 年経った。

委員

里やまボランティア入門講座は 15 名ほぼ全員が受講・修了し、新しい仲間が増えた。

みどりと花の基金事務局長

松戸みどりと花のコンクールを 10/26 に審査会（委員も審査員として参加）、11/16 に表彰式を行う。

応募は 63 団体で団体の部、学校・保育園の部、個人の部各部の表彰を行う。委員会でゆいの花公園で休日の表彰式挙行の提案があったが、コロナ禍中では難しく、例年通り市民サロンにて各賞の表彰を行う。来年は第 30 回の記念開催として、例年より拡大した開催を計画している。

事務局

次回委員会開催は来年 2 月 3 日（木）午前、2 月 4 日（金）午前か午後の 3 つの何れかを予定している。再度委員に確認の連絡をする。

会長

以上で本日の委員会を終了する。